

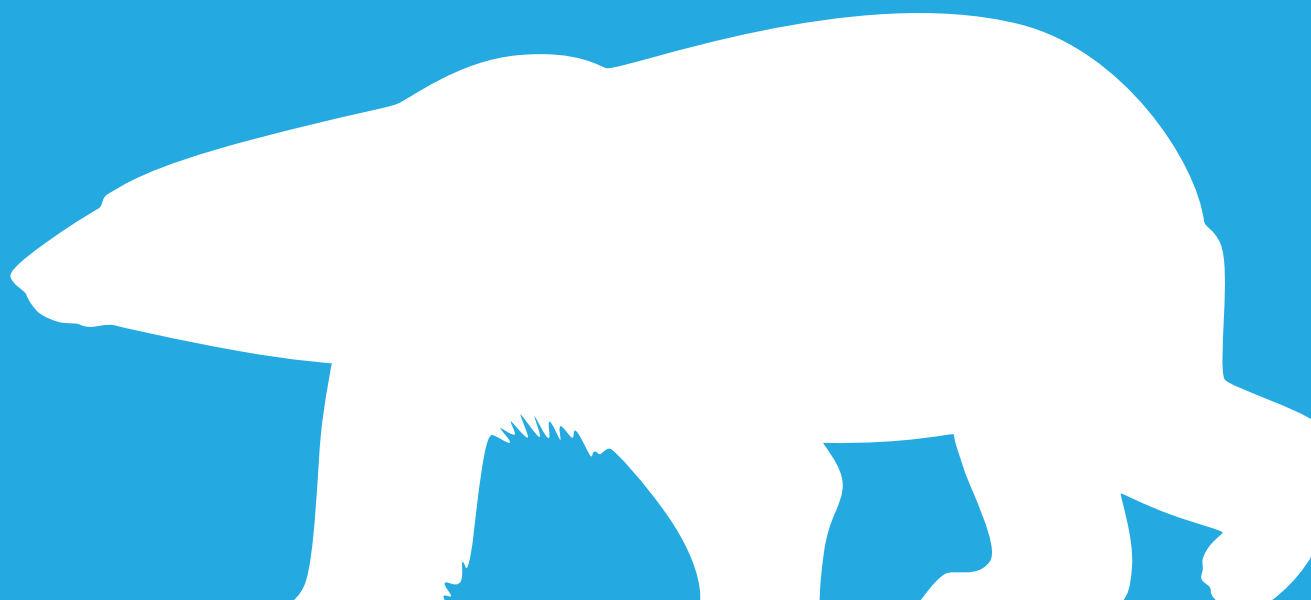
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

地域連携報告書

光華女子学園

環境報告書

令和2年度版



華の煌き この未来も

学校法人光華女子学園

Index

地域連携報告書・環境報告書

1. 一人の百歩より、百人の一歩	01
2. 光華女子学園の概要	02
3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から	03
3.1 京都光華女子大学「富小路まちやキャンパス」の開設	03
3.2 コロナ禍でも「エコキャンパス」の推進を	03

地域連携報告書

4. 地域連携活動	04
4.1 地域との連携協定締結	05
4.2 地域連携の取組	06
4.3 右京区との連携活動	11
4.4 公開講座	13
4.5 「学まち連携大学」促進事業	14
4.6 富小路まちやキャンパス	15

環境報告書（令和2年度版）

5. エコキャンパスの推進	16
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量	17
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
⑥ 廃棄物排出量	
5.2 KOKA エコアワード	20
6. 各校園の環境教育・環境活動	23
6.1 光華幼稚園	24
① 野菜の栽培・収穫	
② 廃材の再利用	
③ 簡易防護服を届けよう	
④ 環境教育・防災・防犯教育	
⑤ 自然物で遊ぼう	
6.2 光華小学校	28
① 環境委員会の取組(1)	
② 環境委員会の取組(2)	
③ 1年生の取組（アサガオのつるでリース作り）	
6.3 京都光華中学校・高等学校	30
① 園芸学ミニ講座とお花の寄植え体験	
② 環境・防災特別講義	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部	32
① JST助成事業「女子中高生の進路選択支援プログラム」の採択	
② リケジョ育成のためのプログラミング教育と 実験的学び～環境と防災をテーマとして～	
③ 京都府立東稜高校向け授業	
④ 京都府立北稜高校での出張講義	

地域連携報告書・環境報告書

1. 一人の百歩より百人の一步

最初に、今般の新型コロナウイルス感染拡大により日常生活に多大な影響を受けられた皆さま方に衷心よりお見舞い申し上げます。また、医療の最前線でご尽力いただいております医療従事者の皆さま方にも心より感謝申し上げます。

私たちも、今回の未曾有の事態を受けて、まずは各設置校におけるオンライン授業の導入や、SNSなどのインフラを使った動画配信などによる教育レベルの維持に極力努めるなど、スピード感を持った対応をまいりました。特に小学校では、どこよりも早く実施に踏み切り、多くのメディアから取材を受けてその対応と内容に高い評価を頂きました。また、本学園で学ぶ学生・生徒・児童・園児すべてのご家庭に経済支援奨学金の支給をはじめ、コロナ救済基金の創設等支援制度の拡充をはかりました。そして、一部の対面授業再開にあたっては、感染拡大防止に努めながらも、心のつながりを大切にするため、「フィジカル・ディスタンスはなれていてもよりそう心」をスローガンに諸活動を推進してまいりました。とはいえ、本学園で学ぶすべての皆さま方には、一日も早くこの異常な事態が収束し、このキャンパスで楽しい学園生活を送っていただきたいとの強い思いに変わりはありません。

さて、本学の地域連携推進センター・環境教育推進室は今年度で設立8年を迎えました。学園の経営方針や事業計画を踏まえつつ、地域が直面する環境問題に地元住民の皆さまと連携し積極的に取り組んでおります。具体的には2020年度は、コロナ禍で医療物資がひっ迫する中、5月には学園全体でポリ袋を材料とした防護服を製作し地域の医療機関に提供しました。これは登校、出勤が制限される状況下において、一人ひとりが自宅ですることを考え実践するという、各自の思いが実を結んだ取組となりました。このほか、コロナ禍における環境教育として、幼稚園では野菜栽培や廃材を活用した工作、小学校では消毒・清掃活動、そして中学・高校では環境と防災をテーマとした「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実践的学び」に取り組むなど、自分たちは常に自然環境の中に身を置き生活していることを意識する学びの場を作ることに努めました。

光華女子学園は1939年9月、東本願寺の故大谷智子裏方（昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君）の「仏教精神に基づく女子教育の場を」との願いから真宗大谷派の宗門校として設立され、2020年9月に学園創立80周年を迎えることができました（感染拡大防止の観点から記念式典などはすべて延期）。校訓を「真実心」と掲げ、教育の基本を仏教、なかでも親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教え、すなわち「生かされ生きていることの自覚」による人間形成に置いています。周囲を見渡し、自分の置かれている状況を考えると、「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」というパリ協定の目標は決して30年先の遠い将来のこととは思えません。誰もが明日の自分、そしてわが子孫の事としてとらえ、「一人の百歩より、百人の一步」が遥かに大きな力になることを意識し、学園の在校生、教職員全体で方向性を合わせ、地域と連携した環境保全活動等に引き続き取り組んでいく所存です。そして、ポストコロナ社会においても、この地域連携報告書・環境報告書が地域の皆さまとのコミュニケーションツールの一つとして役立つことが出来れば幸甚です。おわりに、今なお病床にある皆さまの一日も早いご快癒を心より念じ申し上げます。

光華女子学園 学園長・名誉理事長
阿部 敏行



2. 光華女子学園の概要

【沿革】

- 昭和14年 9月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
 15年 4月 1日 光華高等女学校開設
 19年 3月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
 20年 3月29日 高女同窓会「漱清会」発足
 22年 3月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足
 22年 4月 1日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称
 23年 4月 1日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
 25年 4月 1日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
 26年 2月28日 学校法人光華女子学園設立認可
 29年 4月17日 光華衣服専門学院開設
 39年 4月 1日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
 40年 4月 1日 光華幼稚園開設
 43年 4月 1日 光華小学校開設
 62年 4月 1日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方選挙（83才）
 3年 4月 1日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
 5年 4月 1日 短期大学、家政科を生活学科に改称
 6年 4月 1日 大学、文学部に人間関係学科を開設
 6年11月22日 光華衣服専門学院廃校
 7年 4月 1日 短期大学、生活学科に4専攻を設置
 9年 4月 1日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
 10年 4月 1日 光華女子大学大学院開設
 文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻
 を設置
 12年 4月 1日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境
 学科に改称
 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称
 英米文学科を英語英米文学科に改称
 13年 4月 1日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光
 華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子
 大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華
 中学校へ校名変更
 大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科
 を設置
 14年 4月 1日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部
 に人間健康学科を設置
 15年 4月 1日 大学、人間関係学部を社会福祉学科を設置
 16年 4月 1日 大学院に人間関係学研究所（修士課程）を設置
 京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究所附属
 施設）開設
 17年 4月 1日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設
 18年 4月 1日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置
 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定
 短期大学部にこども保育学科を設置
 20年 4月 1日 大学、人間関係学部を人間科学部に改称
 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称
 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
 22年 4月 1日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、
 健康科学部を設置
 人文学部に文学科、心理学科を設置
 キャリア形成学部 キャリア形成学科を設置
 健康科学部に健康栄養学科を設置
 23年 4月 1日 大学、健康科学部に看護学科を設置
 25年 4月 1日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設
 地域連携推進センター・環境教育推進室を開設
 26年 4月 1日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、
 心理学科を開設
 大学院、人間関係学研究所を心理学研究科に改称
 27年 4月 1日 大学院に看護学研究科を設置
 短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こど
 も教育学科を設置
 28年 4月 1日 女性キャリア開発研究センターを開設
 30年 4月 1日 大学に助産学専攻科を設置
 31年 4月 1日 大学・短期大学部にリハビリアーツセンターを開設

【学生・生徒・園児数（2020年5月1日 現在）】

大学院	21人
大学	1,963人
短期大学部	193人
高等学校	405人
中学校	119人
小学校	242人
幼稚園	219人
合計	3,162人

【教職員数（2020年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	106人	178人	284人
短期大学部	11人	13人	24人
高等学校	31人	35人	66人
中学校	12人	7人	19人
小学校	19人	9人	28人
幼稚園	16人	10人	26人
職員	94人	49人	143人
合計	289人	301人	590人

【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7分です。

◆校地面積（2020年5月1日 現在）

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

◆校舎面積（2020年5月1日 現在）

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡

【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分



3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

地域連携推進センターは、地域との共生や活気あるエコキャンパスの実現をはかる拠点として、産官学連携によるまちづくりや地域の課題解決の他、本学の教育特性や知的財産を活かした公開講座及びイベント等の開催をとおり、地域貢献、社会貢献を推進しています。

3.1 京都光華女子大学「富小路まちやキャンパス」の開設

今年度は当センターと短期大学部とが協力して、学生の京都定着と卒業生や地域住民の再就職、キャリアアップを支援する取組を開始しました。この取組は、「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」として、令和2年度「学まち連携大学」促進事業に採択され、新たな教育プログラムを展開しています。

そのひとつとして「富小路まちやキャンパス」を開設しました。開所式では、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、地域の方々から温かいご声援をいただきありがとうございました。幼稚園から大学院までを設置した本学には、様々な年代を対象にした教育プログラムがあります。「富小路まちやキャンパス」は、京都市街地にあり、「京まちやを学びの場」としたサテライトキャンパスです。授業や課外活動、各種講座で活用することで、世代を超えた新たな地域交流が生まれると考えています。

女性キャリア開発研究センターとの協力で開始した「学びたい・働きたいをサポートする」リカレント教育も、2期生を迎えることができました。職場の近くに学びの場があれば、もっと学ぶ機会が増えます。卒業生をはじめとした地域の方々に仕事帰りや昼休みのひとときにお立ち寄りいただき、生徒や学生との「学びの社交場」となることを願っています。

地域連携推進センター長
吉田 咲子



3.2 コロナ禍でも「エコキャンパス」の推進を

創立70周年を記念して始まった「KOKAエコアワード」は今回で11回目の開催となりました。作文部門・作品部門など全5部門に1,675件もの作品がエントリーされました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、表彰式は短縮版となりましたが、作品のエントリーは可能な限りオンラインとし、学園長先生からのお祝いの言葉や、審査に当たっていただいた先生方からの講評はYouTubeで限定配信するなど工夫を重ねて実施することができました。

さて、世間ではアフターコロナに向けての体制の検討が急務になっていますが、現政権は温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロとする目標を宣言しました。環境などの取組を重視するESG投資が世界的に広まる中、国として脱炭素に踏み切らなければ、経済成長の足かせとなりかねないとしています。このような“まったなし”の環境問題に対して、今年度はコロナ禍で特別な状況ではありましたが、各設置校の幼稚園児から大学生までが工夫を凝らし、さまざまな特徴のある環境活動を実施してくれました。環境教育推進室は、「エコキャンパス」の実現のために、どのような状況においても学齢に見合った環境教育・環境活動を推進していきます。

環境教育推進室長
高野 拓樹



4. 地域連携活動





4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。ここでは、本学の立地する右京区における主な連携内容を紹介します。

連携協定内容

◆葛野学区自主防災会との協定 ―大規模災害発生時における地域協力に関する協定―

【提携先】：葛野学区自主防災会

【協定年月日】：2010年11月7日

災害に強いまちづくりを目指す葛野学区自主防災会と安心を共有できる地域づくりを推進するための連携・協力に関する協定。



◆右京区大学地域連携に関する協定

【提携先】：右京区役所／京都外国語大学／嵯峨美術大学／花園大学
京都先端科学大学／立命館大学

【協定年月日】：2011年11月4日（2015年京都学園大学を、2019年立命館大学を追加）

右京区役所と地域ゆかりの6大学による、大学の教育活動の活性化、地域住民の安心安全、地域の活性化及び将来必要とされる人材育成に寄与することを目的とした協定。



◆右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」

【提携先】：右京区役所／右京消防署

【協定年月日】：2014年3月8日

右京区役所、右京消防署と地域防災力の向上と災害時の迅速な支援体制の確立を図る目的で、地域ゆかりの大学・短期大学として締結した協定。



◆京都市教育委員会との相互連携に関する協定

【提携先】：京都市教育委員会

【協定年月日】：2015年12月8日

本学と京都市教育委員会による、京都の学校教育のさらなる充実や教育の課題解決に向けた取組、双方の教育の充実・発展に寄与するための連携・協力に関する協定。



◆地域の安全・安心等に関する協定

【提携先】：京都府右京警察署

【協定年月日】：2017年7月19日

京都府右京警察署と本学は、それぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実をはかることを目的とした協定。



4.2 地域連携の取組

① 教育プログラムでの連携

■ 産官学連携プロジェクト

地域連携推進センター発足後、同センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は、大学の基礎・教養（リベラルアーツ教育）科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。最大の特徴は、必ず学外団体と連携した体制で推進することにより、社会に存在するリアルな課題がテーマとなっていることです。これらのテーマをプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を養成すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

2020年度に開講された「産官学連携プロジェクト」

科目名	テーマ	連携先	概要
産官学連携プロジェクト a	地域との連携を通じた学びと成長	京都三条会商店街	京都市中京区にある「京都三条会商店街」と連携したイベントを通じて、商店街の賑わいに貢献し、地域住民との交流やイベント企画の工夫・経験を通じて、プロジェクト推進能力やコミュニケーション力など社会で必要となる力を養成するプロジェクト型の授業。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のなか、これまでに経験のない新たな環境で実施し、企画検討はオンラインで行い、イベントも非接触を考慮した内容を工夫し実現。
産官学連携プロジェクト b	地域との関りを通じた学びと成長	高齢者福祉施設「西院」	高齢者福祉施設「西院」の利用者と一緒に野菜を育てたり、「おいでやす食堂（地域の親子や施設利用者などが自由に参加できる食堂）」にボランティアとして参加したりするなど、様々な人との交流を通じて、考える力やコミュニケーション力など社会で必要となる力を養成するプロジェクト型の授業。今年度は、感染防止の観点から、授業をすべてオンラインで実施し、「高齢者福祉」「子どもの貧困」をテーマに施設で実施できそうなアイデアを考え、施設スタッフの方にプレゼンテーションを実施。
産官学連携プロジェクト c	仁和寺で学ぶ文化財を活用した新たな観光戦略	真言宗御室派仁和寺	大学コンソーシアム京都が主催する世界遺産PBL科目の一環として、右京区の世界遺産「仁和寺」と連携、寺院内の非公開部分も含めた見学と寺院スタッフによる仁和寺の観光戦略等の講話を聴講した後、グループに分かれて、若者視点から見た仁和寺の魅力を高める施策を提案、「成果報告会」で発表。（この授業には、本学学生の他、同志社、龍谷、京都産業の各大学の学生も参加）

【産官学連携プロジェクト活動の様子】



感染症対策を講じてイベントを実施（京都三条会商店街）



オンライン授業の様子（高齢者福祉施設「西院」）



御殿を見学（仁和寺）



グループで討議した内容を発表（仁和寺）

■ 各学科等での地域連携科目

本学では「産官学連携プロジェクト」だけでなく、各学科の特性・専門性に応じて、さまざまな連携科目を開講しています。

地域連携科目（一部）の紹介

科目名（学科）	テーマ	連携先	概要
商品企画論 （ライフデザイン学科）	社会や顧客のニーズに応える商品コンセプトの検討と提案	株式会社鳴海屋	市場の理解、お客様の行動特性や生活スタイルを分析し、潜在的なニーズを発見して新しい商品コンセプトを作成するプロセスと考え方を学ぶ授業。今年度は京都市右京区にある京あられ・京おかきを製造販売する「株式会社鳴海屋」と連携して「20代女性のハートをつかむ米菓」をテーマにグループワークを行い、新しい商品コンセプトを提案。
現代消費生活論 （ライフデザイン学科）	食や消費に関する知識や課題について学び、行動する	京都府農林水産部	京都府農林水産部農政課と連携して、特に若い世代の食をめぐる現状や、食品の安全性確保、表示の活用の推進、地域の郷土料理の伝承など、京都府の食に関する課題解決のための取組や、大学生が活動できる「きょうと食の安心・安全ヤングサポーター」制度を紹介し、食や消費の視点から地域の一員として問題意識を持ち、行動につなげる力を身につけるための授業。

科目名 (学科)	テーマ	連携先	概要
プレゼンテーション・ベーシック (ライフデザイン学科)	女子大生が提案する「新しいゴルフの楽しみ方」	株式会社アコーディア・ゴルフ	毎回、科目の最終5週において、企業や自治体からテーマ提供を受け、企画立案とプレゼンテーションを行う授業。今年度は全国でゴルフ場を経営する左記企業からテーマに関する提案を受け、学生20名が5つのチームに分かれて企画提案を行い、最優秀プレゼンチームを決定。
学生が創る地域b (ライフデザイン学科)	観光地として著名でない地域を題材にしたツアー企画の提案	岡山県吉備中央町 阪急交通社	阪急交通社指導の下、吉備中央町でのフィールドワーク、ツアー企画、連携先へのプレゼンテーション実施等を予定していたが、コロナ禍で対面授業が制限されたため、担当教員が連携企業とともに現地訪問し、授業資料用にPRビデオを制作。学生は授業でビデオを視聴し、特産品「神石高原町パック」を調理。これらをもとに意見交換し、2チームがツアー企画を提案した。

【各授業の様子】



商品企画論



プレゼンテーション・ベーシック

② 多職種連携研修会

公益財団法人笹川保健財団から地域啓発活動助成金を受け、本学健康科学部看護学科・地域連携推進センターが主催となり、オンライン（zoom）にて研修会を開催しました。本研修会は、「『親亡き後』精神障害者の自己決定を支える多職種研修会」をテーマに、看護師・作業療法士・精神保健福祉士・生活支援員など医療や福祉に携わるさまざまな職種の方を対象に実施しました。毎講演後には、職種の垣根を越えて活発な質疑応答、意見交換が行われました。



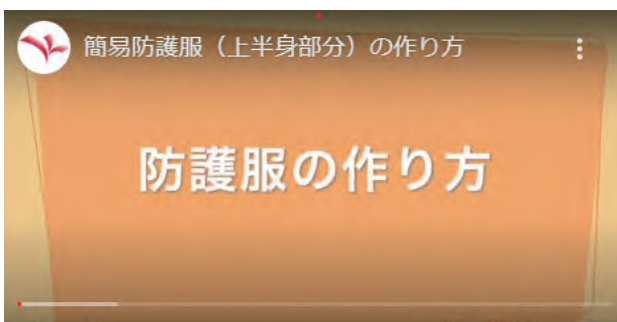
開催日	テーマ	講師
第1回 (2020年10月18日)	精神科病院における患者の意思決定をどう支援するか	医療法人静心会桶狭間病院 藤田こころケアセンター 看護部長 野中英雄 様
第2回 (2020年11月26日)	患者と家族を結ぶ専門職者の支援	医療法人静心会桶狭間病院 藤田こころケアセンター 医療福祉相談室課長 森井曜子 様
第3回 (2020年12月14日)	就労継続支援B型とは	就労支援事業所ひこばえ 生活支援員 高尾憲治 様

【オンライン研修会の様子】

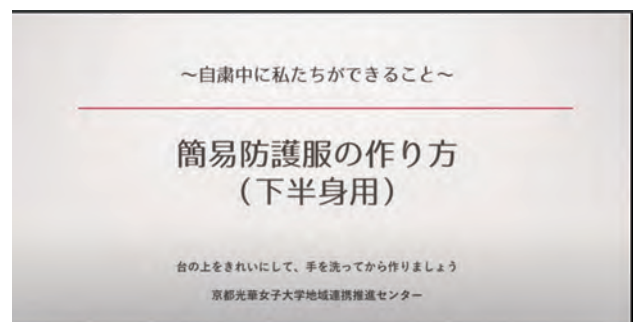


③ 簡易防護服製作と寄贈

2020年、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、医療や福祉の現場では、施設設備の限界や従事者の疲弊など、大変厳しい状況が続いておりました。そこで、「登校、出勤などを含め外出が制限されている中、私たちにできることは何かー」を考え、簡易防護服の製作を学園在籍者（園児、児童、生徒、学生、教職員）や地域の方々にご協力いただけるよう呼びかけました。



[動画]簡易防護服(上半身部分)



[動画]簡易防護服(下半身部分)

*動画は、こちらからご視聴いただけます。(https://www.koka.ac.jp/crc/archives/2007)

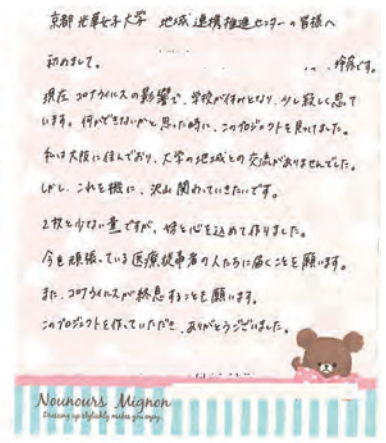
*これらの動画は、榊原記念病院様のウェブサイトを参考に制作しています。



たくさんの簡易防護服が届けられました



園児が作ったイラスト入りの簡易防護服



医療従事者への皆さまへ、感謝の気持ちを伝えるイラストやメッセージ

多くの方々にご協力いただき、呼びかけ開始から10日ほどで600着を超える簡易防護服が続々とセンターに届けられ、医療法人財団康生会武田病院様へ、合計924着の簡易防護服を届けることができました。製作にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



簡易防護服、ありがとうございました！

多くの皆様から心温まるメッセージとともに、たくさんの防護服を頂きました。

緊急事態宣言が解除されたので、安心ではありません。これからは、ウイルスと一緒に乗り越える方法を私たち一人ひとりが考え、行動しなければなりません。

医療従事者として、地域の方々、そして自分たちの健康維持・増進に向け、がんばっていきます！

皆さまも、規則正しい生活を基本に、手洗い・うがい、異常の早期発見をお願いします。

医療法人財団康生会武田病院 看護部一同





4.3 右京区との連携活動

① 右京区まちづくり支援制度

右京区まちづくり支援制度とは、右京区役所が主催する助成事業のひとつです。まちづくりを推進するためには、地域の資源や価値を再認識し、まちの将来像を描き、まちづくり活動を展開していくことが必要です。このようなまちづくりの担い手として、大学は大きく期待されていると同時に、まちを構成する団体のひとつとしての責任もあります。本学は、この支援制度に平成22（2010）年度から申請し、これまで数多くの提案事業が採択されてきました。採択された提案事業を推進するプロセスはもちろん、申請書類を提出し、公開プレゼンテーションで審査を受け、活動終了後に最終報告会で発表することは、授業では習得することができない実践的な学びがあります。

※2020年度のプレゼンテーションは、感染症拡大防止のため非公開で行われました。

採択事業（2020年度）

団体名	事業概要
光華子育て支援 かがやき隊	<p>「かがやき隊子育て支援講座」 例年は「光華こどもひろば」をはじめ、学内外で様々な子育て支援の取組を行っているが、今年度は感染症対策のため、「ミニ子育て支援講座」「子育て交流会」をオンラインにて実施し、学外講師による「特別企画」をYouTubeで配信。</p>

【活動の様子】



「ミニ子育て支援講座」配信動画の撮影



「特別企画」オルゴールサロン・ヒロの取材



「子育て交流会」インタビュー撮影

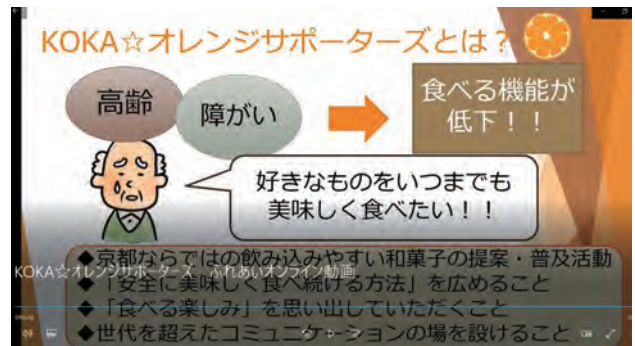
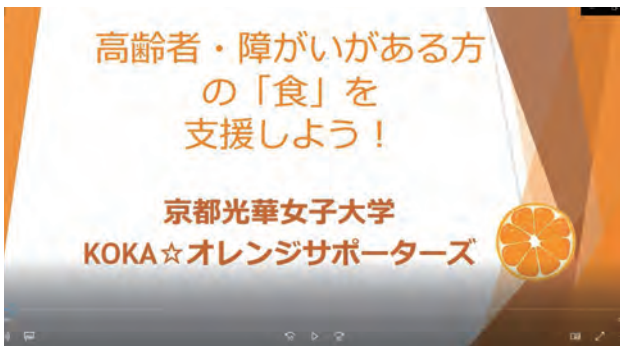
② 右京区民ふれあい・文化フェスティバル オンラインへの参画

本学が立地する京都市右京区では、毎年、「右京区民ふれあいフェスティバル」が開催されています。このイベントは、右京区民の方々の親睦を深めることを目的とし、15,000名以上の来場者がある一大行事です。右京区内の企業、自治会、NPO法人、学校関係などが出店しており、本学からも多くの学生団体や学科が出店・出演しています。

今年度は、ウィズコロナ社会における新たな区民交流の場をつくることを目的に、右京区の団体・グループや事業所、企業などの活動PRや日頃の文化・芸能活動の成果となるパフォーマンス等の動画を募集し、特設のWEBサイトで公開する「右京区民ふれあい・文化フェスティバル オンライン」として開催されました。本学からは、「KOKA☆オレンジサポーターズ」と「京都光華防災サークルDaisy(デージー)」が動画を制作し、参加しました。

◆ 「KOKA☆オレンジサポーターズ」

2016年9月から、京都光華女子大学のラーニングコミュニティ「学Booo^{まなぶー}」の学生活動グループとして、健康科学部を中心とした学生が参加している団体。



◆ 「京都光華防災サークルDaisy」

各学科の特色を活かした男女共同参画視点の減災リーダー育成をめざし、2019年4月に発足。民間団体や行政機関など多様な団体が協働して防災に取り組めるよう地域連携の拠点となることを目指す。



PR動画はこちらから視聴いただけます。

右京区民ふれあい・文化フェスティバル オンライン
<https://www.ukyo-fureai.com/>

▶ 右京区民ふれあい・文化フェスティバル 🔍





4.4 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として、公開講座（無料）と教養講座（有料）を提供しています。今年度は感染症拡大防止の観点から、やむを得ず開催延期・中止とした講座もありましたが、いくつかは規模を縮小し、対策を講じながら実施することができました。

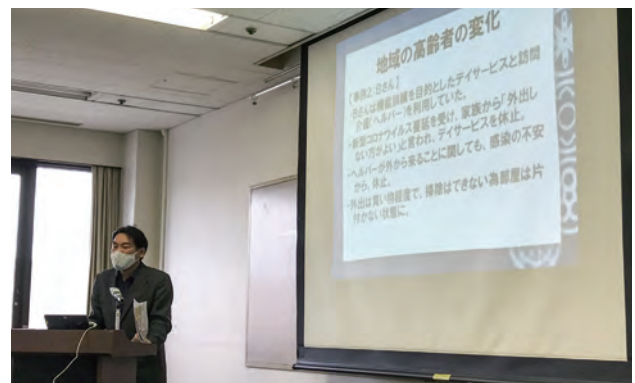
開催した公開講座（2020年度）

実施日	テーマ・講題・講師
2020年9月11日	京都光華文化講座（京都アカデミアフォーラム in 丸の内） 「女子教育のこれから～学び、活躍について～」 加藤千恵（女性キャリア開発研究センター長） 吉田咲子（地域連携推進センター長）
2020年9月12日	京都光華文化講座（真宗大谷派 福井東別院） 「女子教育のこれから～学び、活躍について～」 加藤千恵（女性キャリア開発研究センター長） 吉田咲子（地域連携推進センター長）
2020年11月28日	京都光華まちづくり講座（京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）） 「コロナ禍で地域に起こっている高齢者の課題～地域包括支援センターからの報告～」 高橋岳大氏（京都市梅津地域包括支援センター 社会福祉士 本学非常勤講師）
2021年1月26日	京都光華文化講座（富小路まちやキャンパス） 「女子教育のこれから～学び、活躍について～」 加藤千恵（女性キャリア開発研究センター長） 吉田咲子（地域連携推進センター長） 三宅麻未（女性キャリア開発研究センター助教）

【講座の様子】



京都光華文化講座（京都アカデミアフォーラムin丸の内）



京都光華まちづくり講座



京都光華文化講座（福井東別院）



京都光華文化講座（富小路まちやキャンパス）

4.5「学まち連携大学」促進事業

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部が行う取組「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」が、京都市及び（公財）大学コンソーシアム京都の実施する「学まち連携大学」促進事業（「スタートアップ型」）に採択されました。本事業は、地域連携の取組を、学部・学科の枠を超えて、大学の組織的な取組として定着させ、充実・発展させることを目的に、「学まち連携大学」促進事業を平成28（2016）年度から実施している事業です。本学では、これまでの地域と連携した教育を展開し、学生の京都定着と卒業生や地域住民の再就職及びキャリアアップを目指すべく、下記のような取組を実施しています。

■2020年度の取組

項目	内容
まちやサテライト キャンパス活用	サテライトキャンパスの整備 地域連携拠点でのオープニング講座
地域連携型教育の拡大	①プレゼンテーション演習（連携先：東武トップツアーズ京都支店） ②京の伝統文化を創る（外部講師：落語家 桂文也氏、狂言師 鈴木実氏、和歌文学研究家 カーロイ・オルショヤ氏） ③学生が創る地域（連携先：広島県神石高原町） ④くらしに生きるものづくり（連携先：吉靴房、山田松香木店、西村友禅彫刻店、tezomeya） ⑤商品企画論（連携先：株式会社鳴海屋）
リカレント教育	リカレント教育の継続実施、キャリアカウンセリング



「学まち連携大学」促進事業認定式 門川市長と高見学長



「京の伝統文化を創る」落語



「くらしに生きるものづくり」手染め体験



「くらしに生きるものづくり」革小物づくり



4.6 富小路まちやキャンパス

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部の取組「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」が京都市及び（公財）大学コンソーシアム京都が実施する「学まち連携大学」促進事業に採択され、その一環として2020年10月「富小路まちやキャンパス」を開所しました。京都の伝統的な町家で学生をはじめ生徒・児童・園児に対する教育活動を展開することを目的としています。場所は中京区富小路御池下った辺り、都心としての良質なにぎわいと良好な住環境が共存する地区で、地域に根付いた教育を行うにふさわしい場所となっています。10月の開所を記念し、テープカットと落語公演を実施し、近隣の方にお披露目することができました。その後、産官学連携プロジェクト科目の企画発表会や卒業生のキャリア調査に関する報告・意見交換会の会場として使われています。



開所式テープカット



産官学連携プロジェクト科目発表会



記念落語公演



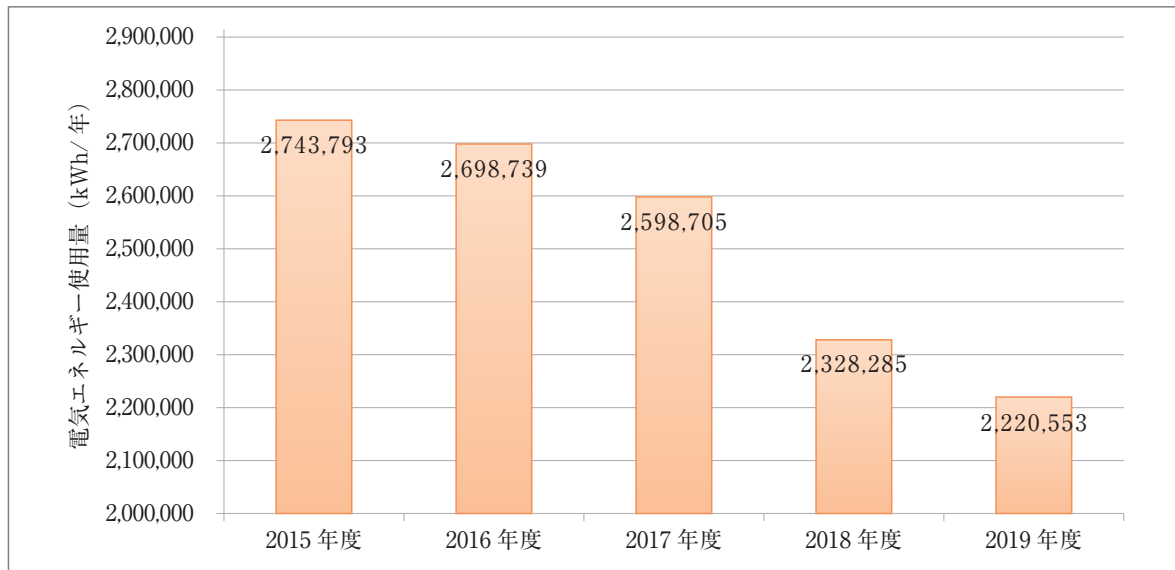
富小路まちやキャンパス正面

5. エコキャンパスの推進



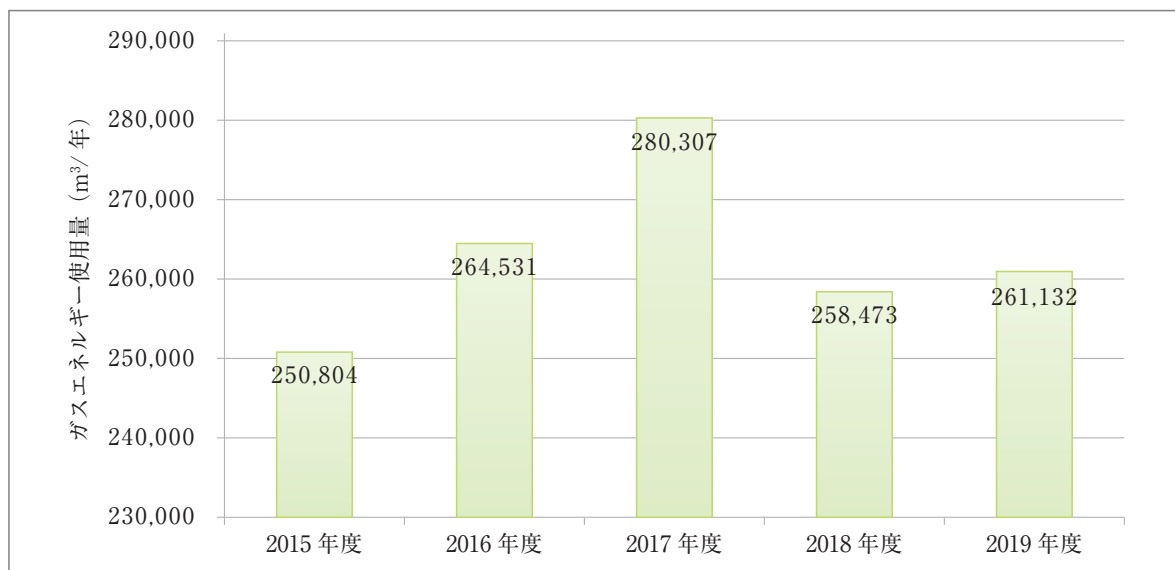
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況

① 電気エネルギー消費量



学園全体における過去5年間の電気エネルギー消費量は減少傾向にあります。この理由は、節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。また、電気（以下のガスも同様）エネルギー消費量の半分以上が北校地（主に大学）における使用であることから、ここでの使用状況は全体に大きな影響を及ぼします。2019年度の年間電気使用量2,220,553kWhをCO₂排出量に換算すると、約755トン（排出係数0.340kg-CO₂/kWh）となります。これは前年度と比較し、約65トン削減できたこととなります。

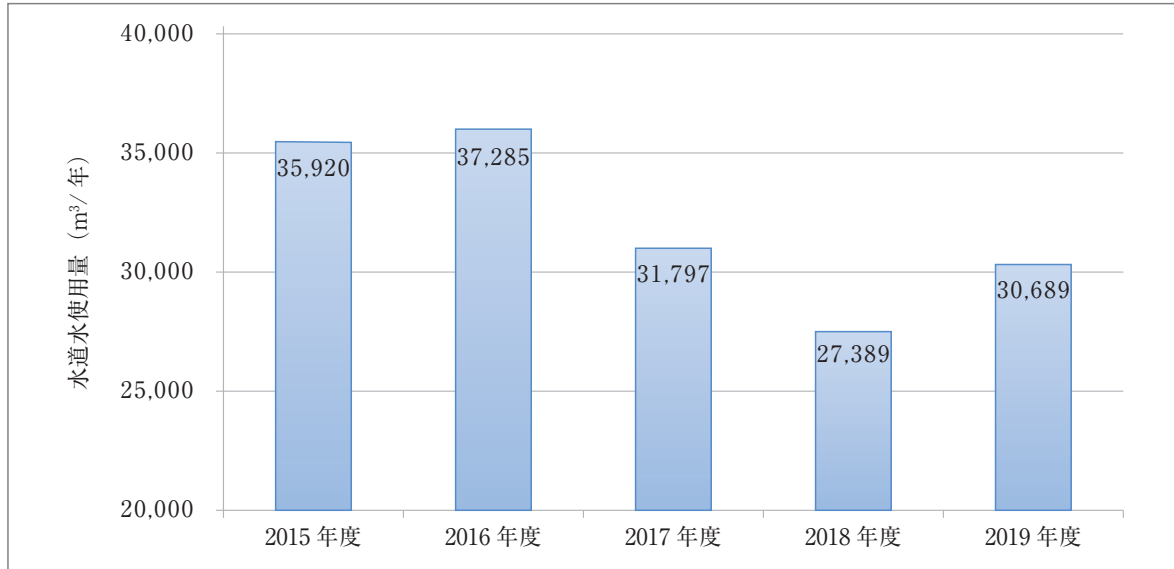
② ガスエネルギー消費量



ガスエネルギー消費量については、2015年度から昨年度にかけて上昇傾向にありましたが、2018年度は前年度に比べて約2万m³以上削減できました。しかし、2019年度は前年度に比べ微増となりました。CO₂排出量に換算すると約6kgの増加となっています（排出係数2.29kg-CO₂/m³）。

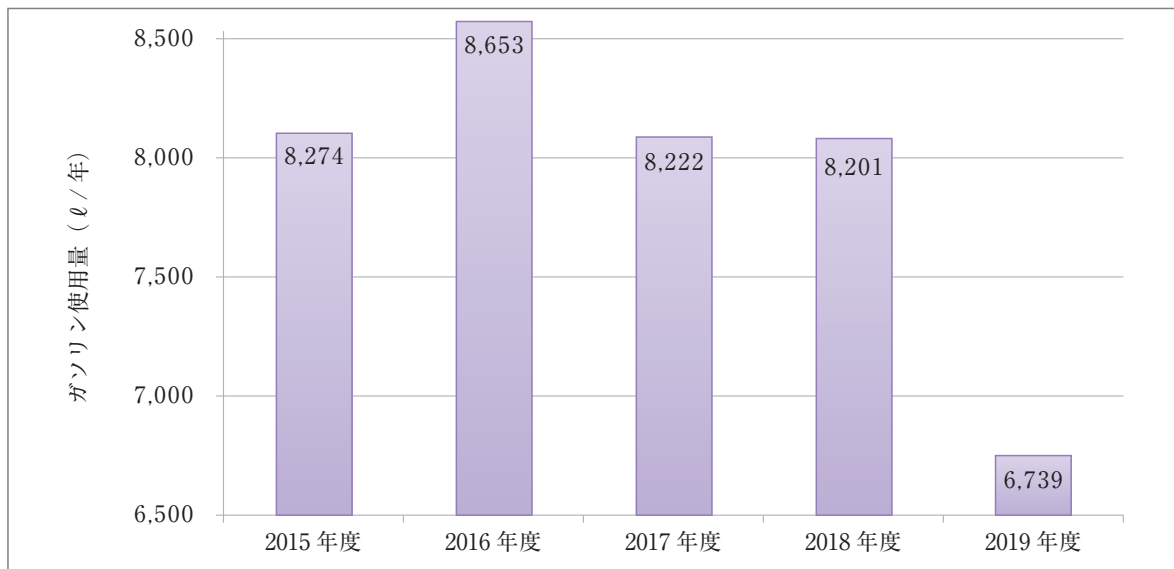


③ 水道水使用量



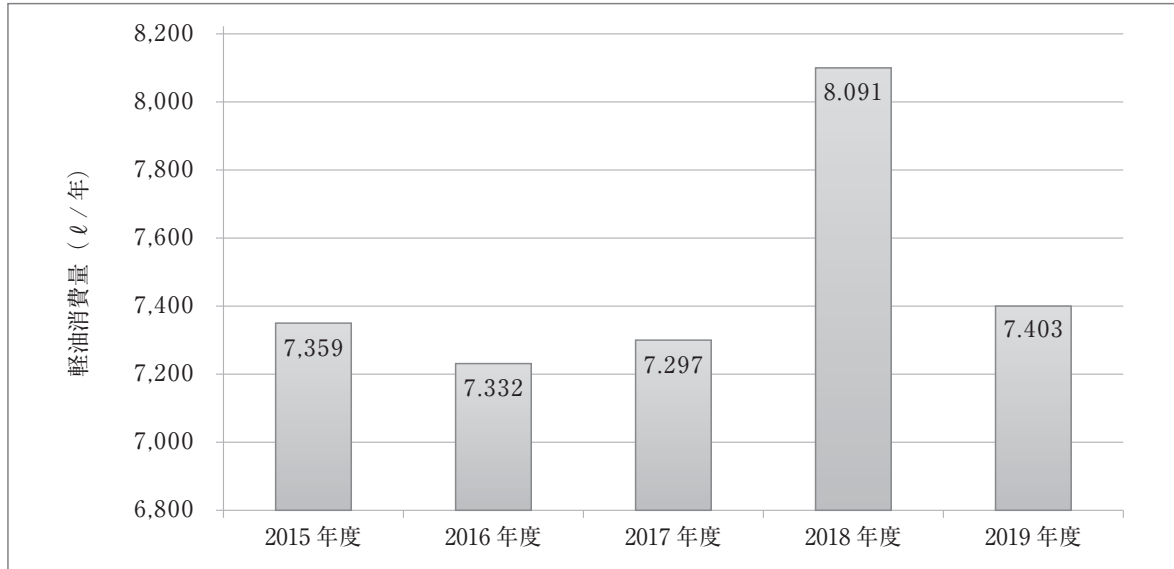
学園全体における過去5年間の水道水使用量は、2016年度をピークに迎え、その後若干上下するものの、全体として減少傾向にあります。大きな要因として、トイレ改修工事を実施する際、計画的に節水式のものを採用していることや、南校地（小学校・中学校）については蛇口に節水金具を装備したことなどが考えられます。しかし、2019年度は前年度よりも3,300m³の増加となりました。

④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は大学および中学校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。2016年度から、こまめなアイドリングストップなどのエコ運転を以前より心がけてきたため、減少することができました。さらに、大学公用車を使用した募集活動のエリア設定の変更の他、公共交通機関を使った活動が大きく影響しているものと思われます。なお、2019年度のガソリン消費量6,739 ℓをCO₂排出量に換算すると、約16トン（排出係数2.322kg-CO₂/ℓ）となります。前年度に比べ3トン以上の削減量となります。

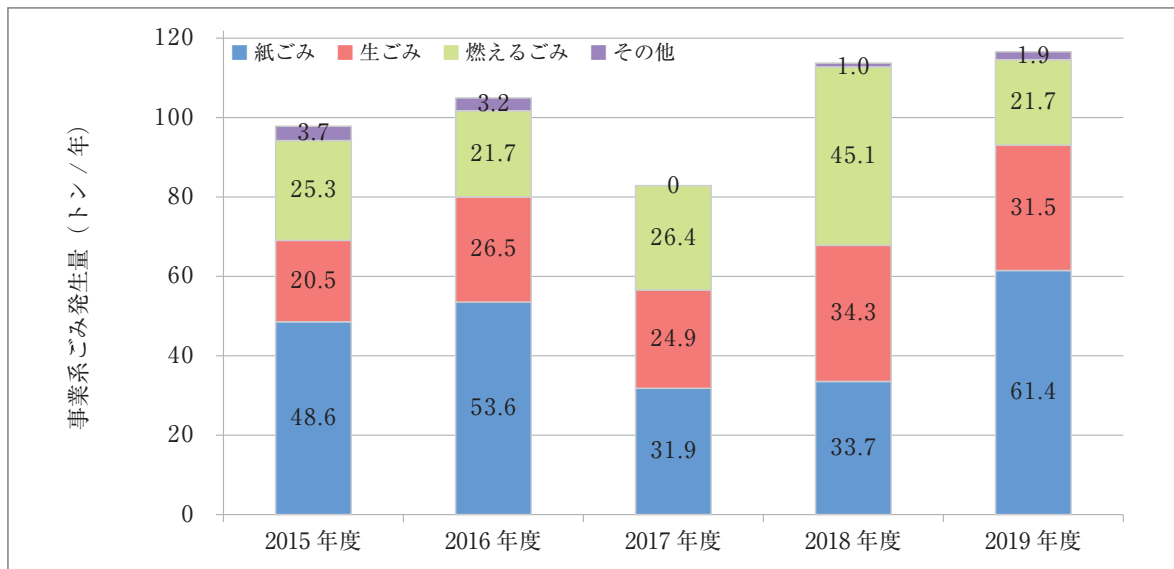
⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。2018年度は前年度までと比べ大幅な増加となりました。これは幼稚園送迎エリアを拡大したことによる影響が大きいと思われます。しかし、2019年度はこまめなアイドリングストップの他、クラブ等の遠征による利用が減少したことが関係して減少している可能性があります。

⑥ 廃棄物排出量

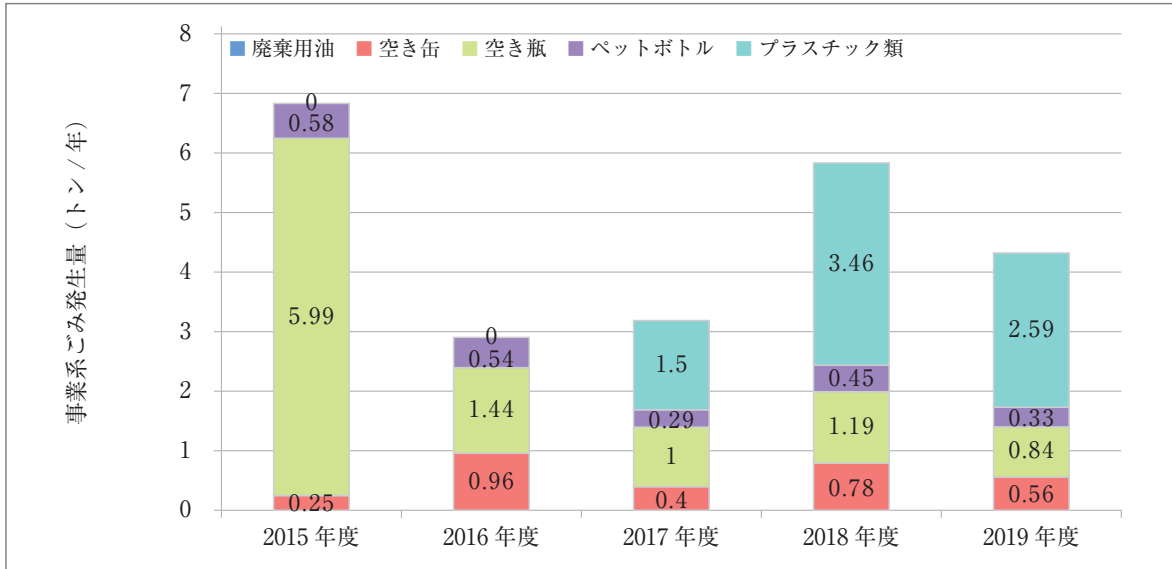
● 事業系廃棄物



2019年度は過年度に比べて、事業系廃棄物発生量が微増しています。項目別に見ると、特に紙ごみの増加が大きくなっています。これについては燃えるごみ、生ごみに混在する紙ごみ（いわゆる雑紙）を分別により紙ごみとして資源化することができたことによるものです。徹底した分別により、ごみをごみとしてではなく再資源化する取組を今後も推進していきます。



●産業廃棄物



プラスチック類が2017年度に発生していますが、これについては、2016年度までは事業系廃棄物の「その他」の区分に含めて計上していたためです。2019年度の産業廃棄物発生量は昨年度に比べて減少することができました。特にプラスチック類の減少が大きく、約1トン弱の減少に成功しました。

5.2 KOKA エコアワード

平成22（2010）年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、今年度で11回目を迎えました。この取組は幼稚園から大学・大学院までの在学生・在園児・教職員を対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。創立80周年にあたる今年度のエコアワードは、本学園に関係するすべての方、お取引先様まで募集範囲を拡大し、「標語・短歌（和歌）部門」へのエントリーを可能としました。「標語・短歌（和歌）部門」に関しては、応募フォーム（googleフォーム）を作成し、パソコンやスマートフォンから気軽にご応募いただけるようになりました。

皆様から合計1,675件の作品をご応募いただき、優れた作品に対して表彰しました。毎年、間光館（70周年記念棟）キャンパスモールに受賞作品を展示し、多くの方々にご鑑賞いただいています。

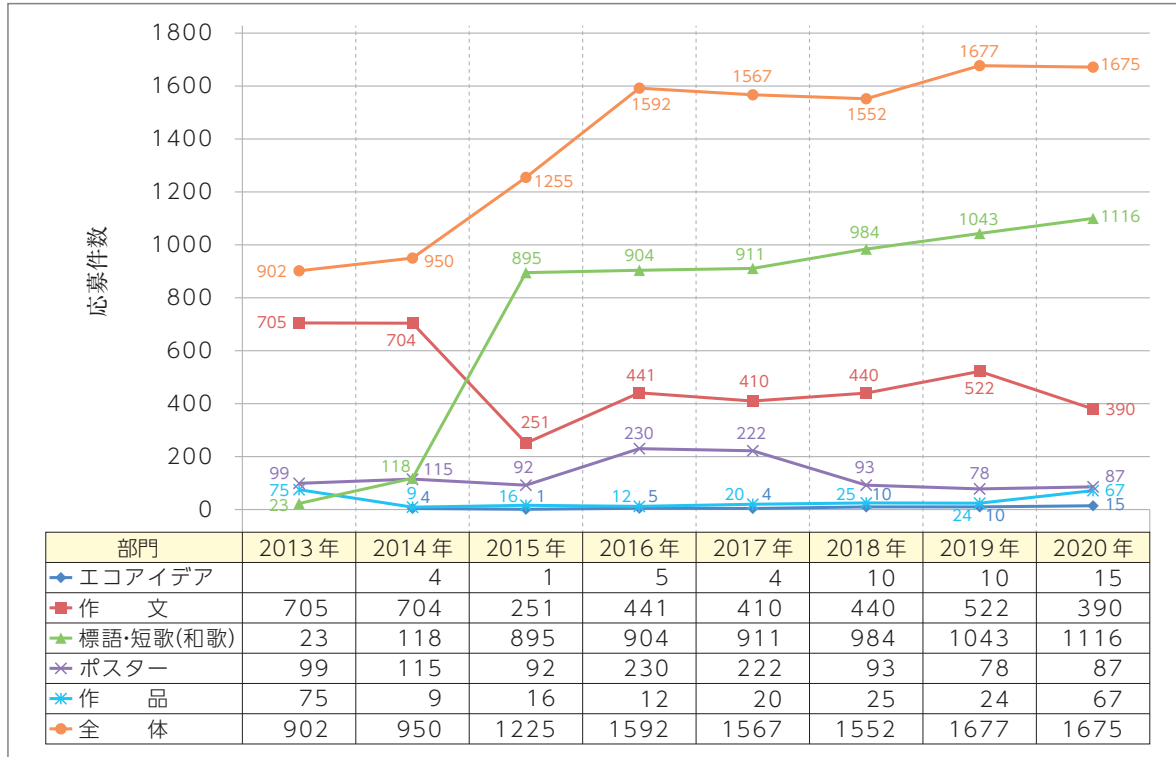


【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこで、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年（2010年）を機に「KOKAエコアワード」を設立いたしました。

●KOKAエコアワード応募作品数の推移



●2020年度受賞作品（金賞・銀賞・銅賞のみ掲載）

※詳細は<https://gakuen.koka.ac.jp/archives/2825>をご覧ください。

*** <生徒・学生等の受賞作品> ***

①エコアイデア部門 ***** 該当なし（入選のみ）

②作文部門 *****



受賞者
金賞 「一人暮らしでの変化」
大学 心理学科 小野 美紀

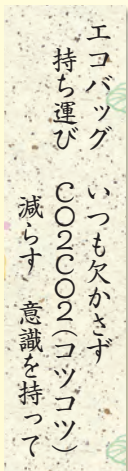


受賞者
銀賞 「おにぎり1個が環境を変える」
高校1年 村井 美郁

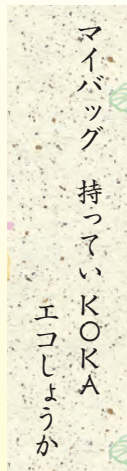


受賞者
銅賞 「貧困という教育環境問題に向き合う」
大学 こども教育学科 小山 千莉

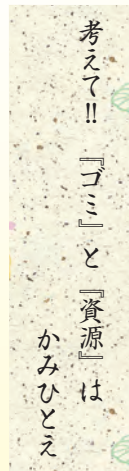
③標語・短歌（和歌）部門 *****



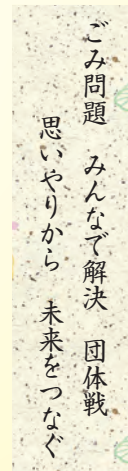
受賞者
金賞 大学キャリア形成学科
上羽 和香



受賞者
銀賞 短大ライフデザイン学科
大野 瑞穂



受賞者
銅賞 中学校1年
中野 美舞



受賞者
銅賞 大学 こども教育学科
三池 春菜

4 ポスター部門 *****



金賞

受賞者 「これ以上溶けないように」
高校2年 加茂美紗希



銀賞

受賞者 「少しのゴミで生き物が命を落とす」
小学校5年 伊瀬 准奈



銅賞

受賞者 「新しいものより今あるものを新しく」
高校2年 鎌田 真凜

5 作品部門 *****

受賞者 「海」
幼稚園 松尾 怜奈



金賞

受賞者 「うちゅうだいぼうけん! なかをのぞいてみよう!」
幼稚園 藤尾 陽翔



銀賞



銅賞

受賞者 「かいぞくせん」
幼稚園 三好蔵之典

銅賞

古着きて いつも近くに 祖母想う

3 標語・短歌(和歌)部門 *****
** ^ 卒業生・保護者・関係先様等 ^ **

受賞者

株式会社ワークアカデミー
井本 舞さん

銀賞

人口の 星の光に 照らされて
いっしかみえぬ 久堅の星

受賞者

大学キャリア形成学科コモンズ
藤原 佳那

6. 各校園の環境教育、 環境活動



6.1 光華幼稚園

① 野菜の栽培・収穫

毎年、園庭にある小さな畑で、季節の野菜を栽培しています。種や苗を植え、水やりをして大切に育てています。今年も、にんじん・じゃがいも・なす・きゅうり・玉ねぎ・かぶ・ミニトマト・枝豆・ブロッコリーを収穫しました。



幼稚園産の野菜です



にんじんの種まき



にんじんの収穫



力を込めて「うんとこしょ！」じゃがいもの収穫



きゅうりにはトゲがあるよ！



腐葉土の空袋でかぶの栽培

② 廃材の再利用

本来なら捨ててしまうような、古新聞・画用紙の切れ端・空き箱・トイレトーパーの芯・ペットボトルのフタなども子どもの発想力でステキな製作材料に変身します。廃材を再利用して、オリジナル作品を作っています。



ストローや紙コップを使って！



ミニSLを作ったよ！



画用紙の切れ端で製作



風船に古新聞を貼り付けて「張り子」作り



張り子で人形を作ったよ！



空箱を使って楽しく製作中！



ヤクルトの容器でかわいい人形作り！



ペットボトルが編み機に！



編み機で作ったすてきなマフラーが完成！

③簡易防護服を届けよう

新型コロナウイルス感染症拡大にともない、緊急事態宣言中の5月、「おうちで私たちができること～医療現場に簡易医療物資を届けよう～」の活動で、保護者の方々や子どもたちがゴミ袋で簡易防護服を作りました。子どもたちもテレビなどの報道で医療従事者の方々にとって大変厳しい状況が続いていることを知り、感謝と応援の気持ちを込めながら製作してくれました。



二人で協力してゴミ袋を防護服の形に！



気持ちを込めてお絵かき



防護服の完成！お医者さん、看護師さん、みんなありがとう！

④環境教育・防災・防犯教育

幼稚園では環境問題や防災・防犯について絵本や紙芝居などで子どもたちに伝えています。「どうしてゴミの分別が必要なのか」「節電・節水の方法」「地震や火事がおきた時にどうすればよいのか」「知らない人に声をかけられた時にどうすればよいのか」など、大好きな絵本・紙芝居を通して分かりやすく伝えています。



防犯・防災の絵本をしています



環境問題の紙芝居を真剣に見ています



火事は怖いね～



絵本で防災グッズのチェック！

⑤ 自然物で遊ぼう

五条道りに面している幼稚園では、なかなか自然に触れ合うことが出来ません。自然を求めて出かけた遠足先で見つけた木・どんぐり・松ぼっくり・花などは、子どもたちにとっては宝物です。それらを用いて季節を感じながら行う遊びが大好きです。



育てた朝顔の花をすり鉢でゴシゴシ！きれいな色水ができたよ！



色水で染め紙に挑戦！



遠足先でどんぐり拾い



松ぼっくりやどんぐりで製作

作品展：どんぐりむらのようちえん



年長さんの力作です



6.2 光華小学校

①環境委員会の取組(1)

今年の委員会活動は、新型コロナウイルスの影響で活動範囲が狭まり、なかなか思うような活動ができない中、子ども達は、自分たちで何ができるか考えながら取り組みました。第1回目の委員会活動では、みんなが気持ちよく過ごせるよう、消毒活動を行いました。手すりや窓を拭いたり、廊下をクイックルワイパーで掃除したりしました。



1段ずつ丁寧に♪ 隅々までがんばるぞ！



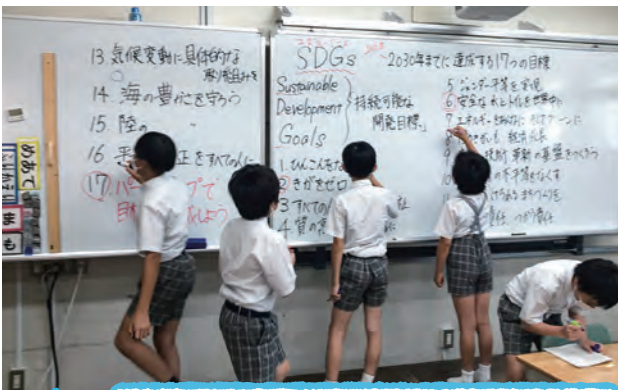
手すりは、みんながよく触るところだから
念入りに拭いておこうかな！



みんなが気持ちよく過ごせますように♪

②環境委員会の取組(2)

「SDGs」について話し合う学習にも取り組みました。まずは、「SDGs」の17の達成目標には、どんな内容があるのかについて紹介した後、一人ひとりが自分の興味のある達成目標について選び、調べ学習を行いました。



1つ目の目標は「貧困をなくそう」なのか！
17目の目標は「パートナーシップで目標を達成しよう」



節約や環境問題だけでなく、
平等や平和についての目標があるんだ！



SDGs (Sustainable…持続可能な Development…開発 Goals…目標)

2030年までに達成すべき目標が17つ挙げられているんだね。

最後の「s」はGoal(目標)が複数あるから複数形の「s」をつけてあるそうだよ。



③1年生の取組（アサガオのつるでリース作り）

1年生の生活科の学習では、アサガオを育て、水やり、観察ともに欠かさず頑張りました。花が咲き終わり、実ができ、種も取ることができました。その後、アサガオのつるを使って素敵なリースを作ることができました。



私のアサガオ大きくなったな。
葉っぱの手ざわりって気持ちいい。



葉っぱにはすじがたくさんあることに気づいたよ。
葉脈という名前がついているって先生が教えてくれたよ。



観察カードには色や形、手ざわり、においなどをかいたよ！
色ぬりまでできました！！



かわいいでしょ♪
折り紙でかざりつけいたらかわいくなったよ！



私たちがかよこよし！！
教室前のろうかにかざってもらいました♪

各校園の環境教育・環境活動

環境報告書

6.3 京都光華中学校・高等学校

今年度はコロナ禍において様々な活動が制限され、例年行っているような課外の研究活動や行事内での取組が実施できませんでした。そのような状況下ではありましたが、オンラインでの取組や京都光華女子大学の採択プログラムへの参加等、例年になく取組への参加で、工夫して環境問題に触れることができました。

JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」で採択された京都光華女子大学の「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験の学び～環境と防災をテーマとして～」プログラムの一環として、今年度中高生は2つの取組に参加しました。

① 園芸学ミニ講義とお花の寄植え体験

11月、京阪園芸の皆様による園芸学のミニ講義と寄植え体験に、中高の環境美化委員15名が参加しました。ミニ講義では、肥料の有効性などについてお話をいただき、園芸の世界に見え隠れする化学の要素を学びました。その後は実際に寄植えにチャレンジ。生け花とは異なり、これからどのように成長するかをイメージし、成長後の見栄えを意識しながら配置を決める必要があります。センスが問われる中、各々の考えでオリジナルのコンテナガーデンを作っていました。自らの手が、学園の彩りに貢献している実感は、花の成長とともに湧いてくることでしょう。



京阪園芸さんからのミニ講義



メインストリートを彩りました



選定終了！寄植えにチャレンジ！



寄植え中



②環境・防災特別講義

12月、中学2年生と高校1年生が、京都光華女子大学キャリア形成学科の土居淳子教授によるプログラミング授業と、高野拓樹准教授による環境問題に関する講義を受講しました。感染対策のため別日程やオンライン会議ツールを使った別会場同時展開などで工夫を凝らした環境での参加となりました。

講義では、まず京都の野生のシカの増加問題をきっかけに環境問題について考えました。さらにそれを解決する京都光華女子大学の学生の取組を知り、「自分たちも何かできないか?」と考えるきっかけとなったようです。後半戦では地球規模の環境問題に触れ、これから私たちが生き抜いていかなければならない世界を想像し、他人事ではないこと、自分たちが解決の担い手であることを強く認識しました。

プログラミング授業では、マルチエージェントシミュレータ「artisoc」を用いて、鳥の群れの動きを再現できるか体験的に学びました。設定・指示を少しずつ変化させながら、自分の手でリアルに近づけながらシミュレーションすることができ、プログラミングの基本と可能性を学びました。また、これらを応用して、避難ルートの研究など防災の分野でプログラミングが活躍することも知り、充実した時間となりました。



オンライン会議ツールで他教室と繋がりながらの講義



地球環境問題について



プログラミング授業の様子



ソースコードを実際に作成しています

6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

① JST助成事業「女子中高生の進路選択支援プログラム」の採択

女子中高生の理系進路選択支援プログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業のひとつです。このプログラムは女子中高生の理系への進路選択を支援すること目的としています。女子中高生の興味・関心を高めて理系分野へ進むことを促すため、科学技術分野の第一線で活躍する女性たちとの交流会・実験教室・出前授業の開催を支援します。令和2年度は本学環境教育推進室からの提案事業「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び～環境と防災をテーマとして～」が採択されました。

② リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び～環境と防災をテーマとして～

本プログラムは、理系が得意な女子中高生はもちろん、苦手な人も含めて、自分の進路の選択肢のひとつに理系を考えてもらうことを目的としています。今回採択された事業では、環境と防災をテーマにプログラミング教育と実験を通じて学んでもらいます。しかし、最初からこのような理系的な内容ではなく、最初は環境と防災に関する概論授業も準備しています。そこでは、今、地球環境がどうなっているのか、異常気象による被害はどれくらい拡大しているのかなど、社会学的視点から学びます。これらの基礎知識を習得した上で、プログラミング等の理系的学びへと拡大していくことができます。もちろん、概論授業だけ、プログラミング教育、または実験だけということも可能です。中学校・高等学校のニーズに合わせて対応します。

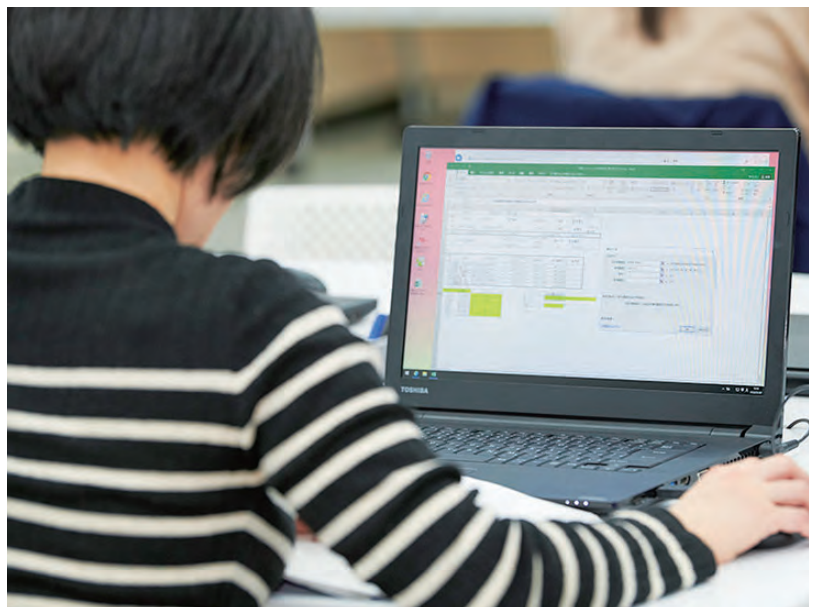
❁ 概論授業 ❁

ここでは、環境問題と防災についての基本的な学習を行います。環境問題については、地球温暖化や砂漠化、有害物質汚染などの地球規模での環境問題について写真や映像を取り入れながら学びます。また、防災については、地震や異常気象についての現状を知り、その対策について考えます。これらの学びは社会や理科、探究を混ぜ合わせた内容となっています。



❁ プログラミング教育 ❁

プログラミング授業では、マルチエージェントシミュレータを用い、ソフトには、「artisoc」を使用します。これにより、プログラム言語を詳しく学習したことのない生徒でも比較的容易にシミュレーションモデルを作成することができます。なお、ここでのテーマについては、例えば、「避難シミュレーション」や「気候変動シミュレーション」など、地域の環境と防災とすることで、生徒はより生活に近いかたちでプログラミングの基礎を修得することができます。



❁ 実験的学び ❁

夏休みや春休みなどの長期休暇を利用した「環境・防災サイエンスツアー」を実施します。ここでは、京都大学防災研究所や京都大学ナノテクノロジーハブ拠点、関西電力など世界トップクラスの大学・企業と連携し、中高生の皆さんに、理系学習の最先端を体験的に学んでいただきます。



③ 京都府立東稜高校向け授業

2020年10月8日（木）、京都光華女子大学にて、京都府立東稜高等学校2年生キャリアコースライフマネジメントの生徒43名を対象に、環境と防災に関する授業を行いました。

第一部は、本学の高野拓樹准教授から、「地球環境クライシス」と題して、気候変動に起因するさまざまな環境問題について講義をしました。講義ではクリッカーとよばれるリモコンを生徒全員に配布し、講師からの質問にリモコンで応答してもらう双方向授業が行われました。



第二部は、京都大学防災研究所の山田真澄先生から、「知ってるつもりの緊急地震速報」と題して、過去に起こった東日本大震災や阪神淡路大震災を事例に、緊急地震速報が市民に届くまでの仕組みの他、年間にどれくらいの緊急地震速報は発表されるか、日本にはいくつの地震観測地点があるかなど、クイズを交えて、楽しく教えていただきました。さらに、地震が起こった際の注意点についても、過去の教訓を交えながら詳しく学ぶことができました。



④ 京都府立北稜高校での出張講義

2020年9月15日（火）、京都府立北稜高等学校2年生20名を対象に、本学の高野拓樹准教授が「京都の山はシカだらけ？竹だらけ？」というタイトルで講義を行いました。本講義では、統計学的な観点から、京都の山林においてシカ頭数が増加傾向にあることや、シカ被害の現状について説明しました。

また、京都の放置竹林の現状を述べた後、農学的な観点から、竹の粉末を土壤に散布することで、ホウレンソウ内にある有害物質である「硝酸イオン」の濃度が減少するなど、竹有効利用の可能性について言及しました。

Koka's Heart*

よりそい 育む
一人ひとりをしっかりと

地域連携推進センター教職員

吉田 咲子（センター長・大学 キャリア形成学科） 加藤 千恵（副学長（社会貢献担当）・大学 キャリア形成学科）
小竹 梓（センター職員） 種子 亜希（センター職員）
原 正美（大学 健康栄養学科） 貞岡 美伸（大学 看護学科）
藪添 隆一（大学 心理学科） 南 多恵子（大学 医療福祉学科）
和田 幸子（大学 こども教育学科） 鹿島 我（短期大学部 ライフデザイン学科）

環境教育推進室教員

高野 拓樹（室長・大学 キャリア形成学科） 間浦 幹浩（中学校・高等学校）
森井 友大（小学校） 大西 千昭（幼稚園）

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書
光華女子学園 環境報告書 令和2年度版

令和3年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38
URL：<http://www.koka.ac.jp/crc/>（地域連携推進センターHP）

本環境報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。
お問い合わせ：<http://www.koka.ac.jp/crc/contact.html>



地域連携推進センターHP



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園

